

■プレゼンテーションへのコメント

伊 東 剛（日光市観光経済部観光課長、日光市国際交流協会事務局長）

ご紹介いただきました、日光市観光課長の伊東でございます。

今回で7回目となった日光プロジェクトにあたり、重田先生をはじめとした多くの先生方にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

今回、1部の講演と、2部の学生からの提言を聞かせていただきました。僭越ではございますが、3つのグループからいただいた提言に関してコメントさせていただきます。

A班は、日光発脱炭素観光地をテーマとし、温室効果ガスの排出や交通渋滞にまつわる交通問題を挙げられました。日本人の多くが自家用車を利用しますが、外国人の方は電車やバス等の公共交通を利用するため、EV車やレンタカーの利用をもっと充実させた方がいいといった提言を頂きました。これに関しては、10月から東武鉄道を中心として、環境に配慮した交通手段を利用した観光周遊を企画するといった取り組みが一部始められています。ここでは、EV車やレンタカーを利用し、日光を回っていただくことを目標としています。そういった点では、学生の皆さんも同じように考えていたので、今後も充実していく必要があると改めて感じました。

B班は、外国人に奥日光の魅力を配信することをテーマとし、戦場ヶ原の散策から発見したごみ問題に関する提言をいただきました。現在インバウンドが止まっているため、外国人の方が少ないといった現状があり、その中で如何に情報発信し、ごみ問題に関する意識の向上をさせるのかという点で、SNSを活用するといった提言を頂きました。また、嬉しいことに、星空アプリを取り上げていただきました。この星空アプリにつきましては、昨年度日光市観光協会の日光支部が中心となり、ライトアップ誘客実行委員会で立ち上げ、星空を使って誘客を図る取り組みの中で考え出されたものです。今年も、ツアーや11月から「星降る夜の日光」と題した取り組みを進めています。これらの点が取り上げられたことから、観光誘客に非常に有効であると分かりましたので、外国人をも対象とした、奥日光の自然と星空をコンテンツとしたツアーの造成など、今後取り組むべき点が見えてきたと感じました。

C班は、奥日光を楽しむための方法をテーマに、湯ノ湖周辺の散策から発見した課題への提言をいただきました。中で挙げられた、バス代が高いことや駐車場での渋滞が多いといった交通問題は、3班どこをとっても同じであり、日光の課題であると感じました。また、コロナ禍で、観光や旅先を考えると変化があったという意見もございました。その中でも8割の方が満足をしていただいているといったアンケート結果があったということに非常にうれしく思います。課題としては、日帰りの観光客が多いため、如何にそれを宿泊につなげるかという点を挙げて頂いています。こちらは日光市の大きな課題の一つと私たちも捉えています。「1日、2日では味わいきれない観光地、“日光”」、「何度でも訪れたいくなる“日光”」にしなければいけない。そのためには、滞在時間の延長につながるような取り組みが必要であり、多言語の案内看板の設置、子供が遊べる場所の整備といった提言を頂きました。こちらは今後の日光市の進めるべき点と合致しますので、参考にさせていただきたいと思います。

3班それぞれからいただいた発表とご提言は非常に素晴らしく、有効なものばかりだと感じました。第1部の講演の中では、宇都宮大学の久保先生、森田さん、バーナデット・キッシュ先生、カール・サルク先生の4人の先生の立場からそれぞれ講演をいただきました。特にバーナデット・キッシュ先生とカール・サルク先生につきましては、外国人目線、自分の国の目線から見た日光に関するご提言を頂いて、非常に参考になりました。サステナブル・ツーリズム、レスポンシブル・ツーリズムなどは、今後日光の観光を考える上では非常に重要な点です。また、カール・サルク先生はアメリカの国立公園、ナショナルパークとの違い

も含めたご提言を頂きました。その点は、日光の観光を考える上では非常に重要なことだと改めて感じました。留学生の皆さんには、今回、3班の中でご提言やフィールドワークをしていただきましたが、そのような視点から自国との違いが日光にも見つかると思います。今回日光で学んだことを自国に戻って発信していただき、また、自国の観光や環境に関することを日光にご提言頂くことで、より良い日光になればいいと感じています。今後とも色々な活動を通して日光に関わっていただければと思います。

私からのコメントは以上でございます。